

2009年11月 日

教育委員会
教育長 様

尾北教職員労働組合
執行委員長 川崎 徹

全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）についての要請

日頃は、教育行政にご尽力いただきありがとうございます。

3年間続いてきた全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）が、来年度から変更になります。今までは全国のすべての学校を対象としてきましたが、抽出調査に切り替えられます。これは、全国学力テストの点数を上げるために、事前に予想問題をやらせたり、平均点を情報開示したりと、教育に競争を持ち込み、教育をゆがめている現状に対して、全国学力テストを中止してほしいという国民の声が文科省に届いたからです。

来年度は、抽出調査に切り替えられたというものの、いろいろな問題が残っています。抽出調査と言っても、40%という高い率での実施であり、しかも、抽出対象でなくても、市町教育委員会が希望すれば、全国学力テストに参加できることになっています。

抽出校以外での実施については、子どもたちを苦しめ、学びをゆがめる問題とともに、学校現場への大変なしわ寄せが懸念されます。抽出校以外には、問題用紙が配布されるだけで、採点は各校が行うことになることが最大の問題点です。4月・5月という年度初めの忙しい時期に、採点業務が入ってきます。勤務時間外や休日を使っただけの仕事となります。採点は、小学6年・中学3年の担任だけではできません。校内の多くの教職員が、休日返上で採点業務をしている姿が目に見えようです。これでは、それぞれの教職員の仕事にしわ寄せが出てきます。とりわけ、授業準備などに影響が出てくると思われます。全国学力テスト自体の問題が広く指摘されているのに、学校運営に支障をきたすとなれば大きな問題です。

そこで、次の点を要請する次第です。

記

- 1 抽出校以外の参加・不参加を決定する前に、現場の教職員の意見をよく聞いていただきたい。とりわけ、今年度全国学力テストを直接監督・実施した小学6年と中学3年の担任等の意見を聞き、参加・不参加を検討していただきたい。
- 2 全国学力テストが学校教育にどのような支障をきたすのかを調べ、全国学力テストの中止を文科省に要請していただきたい。